

大学の片田教授の三つの教え「想定にとらわれるな、最善を尽くせ、率先避難者たれ」を守って九死に一生を得たといわれています。牟岐町においても、この片田教授の防災教材に基づき今後の防災教育を実施し、南海・東南海地震に向けて最善を尽くしていきたい。

教育次長

小中三校で、立地条件に沿った防災教育の推進に取り組んでいます。

月に一回定例校長会を開き、防災、警報発令時の対応について共通理解を図るとともに、三校では、防災安全教育を行い、生徒の防災意識を高めており、体験訓練にも参加させ役割を体得させています。

学校防災マニュアルを見直し、尚一層、行政、関係機関が連携を密にして防災に取り組んで行きたい。

保育所長

幼児の防災教育については、防災の理解が困難な年齢であり、実際の訓練を通

して教育することが最も効果的と考え、毎月火災及び地震津波による避難訓練を実施して、避難方法や防災の意識付けを行っています。

大津波を想定した避難場所や避難方法の見直しを含めたマニュアルを策定中で、今後大津波を想定した訓練を実施する予定です。

**健康管理センターの
引き継ぎは万全か**

横尾 政明 議員

指定管理者の指定が可決された場合、七月一日からの運営に支障はないのか。新規事業者との契約、引継等が考えられるため、利用

者からは休館になるのではと不安の声も聞かれる。今後の日程の周知は町の義務であると思うが、利用者に案内するべきではないか。



牟岐町健康管理センター

町長

議会の承認があり次第、早急に相手方と協議して、休館や支障が出ないようにしたい。

産業建設課長

健康管理センターについて、指定管理者の委託期間は、平成二十三年七月一日から三年間を予定。新旧の指定管理者との引継協議等が完了次第、新聞折り込み等で周知したい。

観光資源を活かせ

横尾議員

牟岐町には観光協会という組織があるが、姫神祭の花火の打上がメインの事業であり、しかも寄付を募らなければ成り立たない。そんな現状では、いずれ観光協会そのものがなくなると危惧される。観光資源として、千年サンゴ、大島、出羽島等誇れるものがあるのに活かしきれていない。こ

れからの町おこしの為にも観光の面にもしつかり目を向けていただきたい。

町長

観光振興は保養観光をキーワードにあらゆる施設、自然を最大限に生かした観光振興に努め、交流人口の増加を図る。

**南阿波よくばり体験
態勢の強化を**

横尾議員

事務局より急激に需要が増えて供給が間に合わないという状態に聞いている。事務局が役場庁舎内にあるメリットを活かし、縦割り行政の弊害をなくし、情報の共有や情報発信等の部門を設ければ地元としていち早く、受け入れ態勢が整うと考えるがどうか。

産業建設課長

牟岐町での民泊の受け入れ件数は四十五件であり、二百人以上の生徒の二連泊